

## ニュースレター（支部概況報告）（12月）

### テーマ

#### 1. 工夫ある経営で頑張っている中小企業（5件） ..... 2頁

- 自然木の日用品を専門に扱う店（木の郷屋・北区）
- 人を活かす高収益企業（榊マツダ・生野区）
- 工場と顧客を繋ぐプロフェッショナルをめざす中小企業（福田刃物㈱・天王寺区）
- 姉妹で顧客満足を実現する宝飾店（京屋宝飾店・浪速区）
- 今話題の光触媒!! 観葉樹「クリーン樹」レンタル（榊大地・平野区）

#### 2. 地域の動き（6件） ..... 7頁

- 「淀川ビジネス・エキスポ2007」大盛況にて開催！（淀川区・西淀川区・東淀川区）
- 第25回・老松古美術祭（北区）
- 空堀商店街で、織田作之助・原作の映画「秋 深き（仮題）」のロケ（中央区）
- 八幡屋付添い・宅配ほのぼのサービス（港区）
- 12回目を迎えた西成区商店街フェスティバル（西成区）
- 住之江・住吉区の商店街は活性化に動き出した（住之江区・住吉区）

#### 3. 建築基準法改正による影響（1件） ..... 11頁

- 建築物新規着工延期影響の裾野の広がり（旭・城東・鶴見支部）



大阪のあるべき姿と重点テーマを示す「ビジョン」と、その実現に向けた「アクションプラン」をとりまとめたのが「大阪財力創出プラン」です。「ビジネス・ホームドクター」である経営指導員が、地域商工業に活力あふれる「大阪」をつくりだすための支援をします。

新淀川支部（淀川区担当） 北・都島・福島支部  
旭・城東・鶴見支部 中央支部 此花・西・港支部  
東成・生野支部 天王寺・阿倍野支部  
大正・浪速・西成支部 東住吉・平野支部 住之江・住吉支部

## 工夫ある経営で頑張っている中小企業

### 自然木の日用品を専門に扱う店

賑わいの絶えない天神橋筋商店街の中央よりやや南に、今日では珍しくなった自然木の日用品を販売している店がある。この店の屋号は「木の郷屋（きのくにや）」で、株式会社有朋企画（所在地：北区天神橋 3-9-12 TEL:6358-7177）の経営者である井上哲基氏が名づけたものである。店内には、木曽、大分の日田、岩手の大野、島根の出雲など国内各地の木製品が展示されている。木曽桧製の「はい帳」や鯉節削り器、秋田杉を用いた酒樽、木曽さわらを用いた寿司桶やお櫃、まな板、オノカレカンバを用いた箸、その他にも様々な食器類、風呂椅子、健康下駄など現代ではほとんど見かけなくなった木製の商品が並べられている。いずれの商品も木の香りが漂い、昔懐かしい逸品である。

井上社長は根っからの商売人ではない。若い頃は民放のテレビ局で番組企画や取材の仕事をしてきたそうで、その一つに「プロポーズ大作戦」の企画もあったという。取材の仕事で全国を回ることが多く、もともと自然に興味があったところから、時間を見つけては各地の木に関する情報を集めたり、桶や下駄の職人を訪ねてはその伝統の技の確かさを飽かずに眺めたりしていた。そのような思い入れが嵩じて、井上氏はテレビ局の仕事を辞して木製品を専門に扱う店舗を開業するに至った。関西には、情報やソフトのような実態のないものに対してはカネを払わない風潮が強い。それならばそれまでに収集した貴重な情報をもとに、木という伝統的な素材を用いたハードのビジネスをやろうと思い立って独立したそうである。

「木の郷屋」では、木製の日用品の他にオリジナルの木の家も販売している。この木の家は「つみきハウス」と呼ばれ、緻密な針葉樹の小径木を高度に加工した長さが30cmで厚みが6～7cmのウッドブロック（積み木）を組み上げて建てられる。慣れれば素人でも容易に建てられるところがミソである。この「つみきハウス」は井上氏が宮崎の高千穂峡を訪れた際に、積み木で作られた電話ボックスを発見したことがきっかけとなった。この積み木を製作している地元宮崎の加工会社と直接取引し、一般向けの「つみきハウス」として大阪で販売するに至ったものである。

店内には、木製品だけでなく久留米かすりの衣料やバッグも展示されている。同店には、中高年の女性がよく訪れる。このような女性客が、木製品の連想から自然素材である久留米かすりの商品を買って求めることが多いという。

同店は、昭和60年7月に開業してから今年で22年目になる。井上氏のこだわりは、一貫して純国産の木を使用することと、趣味や飾りではなく実用品として使える商品のみを対象とし、使えてなんぼの精神に徹することである。また、仕入れは人任せにせず、実際に作っている職人と直接取引をしている。問屋を通すと、独自性がなくなるからである。「木の郷屋」の屋号は、当初は「木屋（きや）」にするつもりであったが、東京・銀座の刃物店に同名のものがあつたので、現屋号にしたそうである。

木は朽ち果てていずれは土に戻るという点で優れたリサイクル品である。あくまでも「木」

にこだわる井上社長の心意気がよく表れている。

(北・都島・福島支部)

---

## 人を活かす高収益企業

株式会社マツダ（代表取締役：松田大善氏 所在地：生野区巽西 2-11-25 TEL：6758-0121 URL：<http://www.matsuda-corp.com/>）は、プレス用金型部品パンチ・ダイボタン、精密部品を製造する。

青地に赤いラインを引いた一際目立つ外壁の同社に入ると、その中はマシニングセンター、放電加工装置等が整然と設置されている。工場内の整理・整頓が行き届いているほか、全館エアコンで快適に維持され、社員にとっても働きやすい環境である。

同社は、人づくりに積極的である。10年前から高校新卒者の採用を継続している。基本的な点は教育するが、技術は主体的に経験しながら習得させることとしており、うまく機能している。採用で最も重視しているのは「やる気」。募集要項にも「これからの日本の製造産業界を支えるやる気に満ちたパワーをもったフレッシュなスタッフを探しています」とある。

「顧客の信頼と満足を得る品質を提供する」との同社の品質方針を実現する為に 2005 年に ISO9001 認証取得をしたが、取得に当たっては、社長の命によりコンサルに頼らずに、社内で取り組んだ。2年で取得したが、ここでも、自主性の発揮と人材育成が念頭に置かれている。

受注は短納期、小ロットが中心で厳しいものの、対応できる生産体制を築いた結果、関西の主な高収益中小企業として新聞で紹介されるなど、事業内容は順調である。ただ、競争相手は多いとして、常に「現状に甘んじない取り組み」を心掛けている。

工場を訪れると、社長はたいてい、現場に入って仕事をしている。社員にも良い感じの緊張感が漂い、優良企業の一面をかいまみることができる。

今般、同社は大阪中小企業顕彰事業実行委員会（大阪府、大阪府商工会議所連合会他で構成）が実施する、「第7回大阪中小企業顕彰事業“匠by繁盛”大阪フロンティア賞」の「魅力あるものづくり企業部門」（大阪産業や地域の活性化に寄与している中小企業を顕彰する）最優秀賞を受賞した。

当然の受賞である。地元企業の模範として、ますますの発展を期待したい。



(東成・生野支部)

## **工場と顧客を繋ぐプロフェッショナルをめざす中小企業**

福田刃物株式会社(代表取締役：福田恒民氏 所在地：天王寺区城南寺町 5-11 Tel：6768-4765) は1965年に創業して、約40年余り工業用刃物の販売に携っている。

もともとは「紙断裁包丁」の販売店からスタートしたが、時代の変動に伴う顧客ニーズの変化から紙製品の裁断から「鉄」「フィルム」「食品」「プラスチック」「ゴム」等の各分野での加工に応じて“刃物”も進化してきた。

工業用刃物とは各種産業機械の先端に取り付けて、例えば電線の切断や、その電線の被革を剥ぐ刃物であったり、一方、医薬を封入している袋にミシン目を付ける刃物、トイレットペーパーのミシン目用刃物であったりと、殆んど全ての産業分野に欠かせないものである。

ここで重要なのは、使う側の顧客が新しいものを求め、それに応えるために、作る側が新しい技術への挑戦をし続ける姿勢であり、これが進化のカギともなる。

「何をどのように加工する刃物か」を正確に把握して目的に合った材料と加工方法を吟味していく。その過程において顧客ニーズを敏感に感じ取り、そのニーズを満たすための努力と挑戦を惜しまないことが大切と福田社長は話される。

物を作る側の工場と使う側の顧客を繋ぐ「橋渡し役」となり、顧客のニーズを的確に把握し、工場に正確に伝えるためには多くの知識と経験を必要とする。

そのために、長年貯えた情報を独自に開発したソフトウェアで管理し、瞬時にその情報を引き出す努力をしているとのことである。

多くの情報と経験を活かす処理能力を持つことはプロフェッショナルの条件である。

我々の日々の生活の向上と産業の進展のために同社の努力と挑戦に期待したい。

(天王寺・阿倍野支部)

---

## **姉妹で顧客満足を実現する宝飾店**

WEBビジネスが流通の大きな軸となるにつれて、商店街内の小売店は衰退しつつある。立地条件に影響される面もあるが、その多くは個店そのものに起因するように思われる。小売店を取り巻く環境は、大きく変化しそのスピードも増している。そのため、真に顧客の欲求を満足させる店のみが繁盛する状況になっている。

「京屋宝飾店」(代表者：武田ツヤ子氏 所在地：浪速区恵美須東 1-14-6 Tel：6631-3966) は、代表者の娘姉妹がそれぞれの得意を活かして役割分担を行い、母親とともによいチーム・ワークで経営を行っている。

同店は、大阪の名所である通天閣のすぐ近く北側(通天閣に本通商店街)に所在している。最近のレトロブームで、同商店街を訪れる観光客も増えている。恵まれた立地であるのは確かだが、昨今の宝飾小売店の衰退化をみるなかで、高い顧客満足を実現し、顧客の支持を受けて

いる同店の経営は小売店のあり方に適切な示唆を与える。

経営の核になっているのは、姉の接客と妹の商品仕入業務である。

主力商品は、世界ファッションの中心地であるパリの最先端のファッションの動向を、現地に赴いて体感しつつ、さらに自店の顧客とのマッチングを考えて、仕入れを決定する。

しかし、そこには大阪ならではの、微妙な調整が求められるという。大阪人の合理的な心情は、流行であるからといってすぐには飛びつかない。これが、大阪の活性化を遅らせている要因とも考えられるが、同店でも2・3年の期間が経過して熟してから選択を行うという。

聴くことを重視した姉の接客についても、感心させられる。高額の商品を扱っていることもあり、商品そのものだけでは販売に結びつかない。販売実現の核になるのが信頼である。販売方法には推奨販売という方法がある。「顧客の声に耳を傾け、悩みや欲求を親身に聞き出したり、思いやったりする姿勢を持って顧客に適した商品を選定し、その特徴や使い方などを提案する」ことが顧客満足の重要なポイントとなるこの方法を無意識で実践している。立ち入って聞くと、「幸福そのものである顧客」でも、多くの悩みを持っており、親身に話を聞くと雑談のなかから思わぬ本音が出てくる。なかには、おもわず泣き出されて悩みを訴える方もいる。解決策などないが、ただただ聴く。これだけで、胸のつかえが治まり、笑顔にもどられる。本当の顧客満足は、個人としてのお客様への思いがあって実現するものあり、その意味で同店の顧客満足経営に対しては敬服させられる。

(大正・浪速・西成支部)

---

## 今話題の光触媒!! 観葉樹「クリーン樹」レンタル

株式会社大地（代表取締役：大辻弘貢氏 所在地：平野区長吉長原 1-1-10 TEL：6769-5570 資本金：400 万円）は平成 19 年 3 月に設立された非常に新しい会社である。

最近、環境問題、自分の健康管理面などに関心が強くなってきているなかで、同社は、タバコ、トイレの消臭、ホルムアルデヒド（シックハウス症候群の原因となる有害化学物



質)、細菌・ウィルス（大腸菌・MRSA・サルモネラ菌）分解などの効果が期待できる「光触媒」をコーティングした観葉樹・造花のレンタル事業を展開している。

「光触媒」とは、二酸化チタンを触媒として、太陽光や蛍光灯などから出る光（紫外線）のクリーンエネルギーによって、空気中の水分や酸素から強力な酸化分解力を持つ働きを作り出す作用のことである。この作用により室内の有害物質を完全に酸化し、無害の炭酸ガスと水に分解する。細菌も表面が光触媒によって光分解されるので死滅する。しかも、二酸化チタンは、従来から主に白色顔料や食品添加物などに幅広く利用されている安全・無害な物質である。

従って、製品の効果に絶対の自信を持っていたが、会社の知名度、信用力もなく、創業当初

は予想に反して全く契約が取れなかった。そこで、1ヶ月無料レンタルサービスを始めたところ、創業から半年あまりで、既に約200社、500本の契約が決まった。契約先は、一般企業、介護施設、ホテル、図書館、飲食店などさまざまな業種である。契約キャンセルの申し出もほとんどなく、お客様に喜んでいただいているとのことである。レンタル利用料金の価格設定が非常にリーズナブルなこと、および「クリーン樹」の効果を感じていただき、顧客満足が得られているものと思われる。

代表者は、「フランチャイズ店展開を視野に入れ業容の拡大を図っていきたい。ビジネスチャンスは、普段の生活の中にもころがっている。将来自社ビルを建てるのが夢です。」と語っておられた。今後の飛躍を期待し、見守っていきたい企業である。



(東住吉・平野支部)

## 地域の動き

### 「淀川ビジネス・エキスポ2007」大盛況にて開催！

11月13日、14日の2日間、新大阪センシティを舞台に、「淀川ビジネス・エキスポ2007（実行委員長：小嶋淳司・新淀川支部長）」が開催された。会期中は、のべ2,016名のビジネスマンが来場し、出展者との間で情報交換や商談が繰り広げられた。

今回が2回目となる本展示会のテーマは「淀川ブランドの育成と発信」。淀川3区の地域的、産業的な魅力を引き出し、情報発信、PRしていく取り組みの一環として開催したもの。会期中は、グローバルな活動を展開する大企業から、ユニークな中小企業など、いずれも地元に関わる優良企業38社・団体が39ブースで出展。各社それぞれの魅力をアピールした。

また、展示会場内では、「シャープの環境対策活動と今後のECOビジネス戦略について（講師：シャープ㈱環境安全本部副本部長・谷口実氏）」と題する基調講演が開催されたほか、「人材開発」・「労務問題」・「マーケティング」・「ビジネス法務」など、ビジネスに役立つセミナーを開催し、のべ300名を超える聴講者が参集し、熱心に耳を傾けた。

さらに、今回はブース出展企業以外にも、淀川3区に立地するわが国を代表するリーディングカンパニーや、グローバル企業、業界内での有力企業等をパネルや映像等で紹介する「淀川3区の優良企業展」も同時開催した。

出展企業へのアンケートによると、60%が「大変良かった」、「よかった」と評価。具体的な商談につながった案件も多数報告された。また来場者へのアンケート（回答率17.6%）でも、「たいへん良かった」、「よかった」との回答が72.8%と高い評価を受けた。来場者の「参加動機」については、「地元どんな企業があるか知りたい」という声が、約40%を占め、「地域企業の素晴らしさを改めて実感した」、「地域にとっても良い企画だ」など、好評な意見も多く、小規模ながらも地域の特性に応じた、エリア内展示会開催のニーズの高さが浮き彫りとなった。

（新淀川支部）

---

### 第25回・老松古美術祭

平成19年11月3日（土・祝）、4日（日）、AM10時～PM6時、北区西天満4丁目界限（通称：老松通り古美術街）で「第25回・老松古美術祭」が開催された。

全国でもこれだけ古美術店が集中している街は少なく、この界限は美術関係者のコレクターにはつとに有名な場所である。その老松通りで毎年、春と秋、西天満界限の古美術店が協力しあい、美と文化をテーマにした町おこし企画がこの老松古美術祭である。主催は、古美術店38店が参加する老松古美術祭実行委員会で、16店の画廊・飲食店等が協賛した。



老松通りの古美術店は通常、日祝は営業していないが、日祝に開催されるこの祭りを楽しみに、毎回3,000人近くの人数が訪れる賑やかな2日間となっている。阪神大震災の復興支援をきっかけに生まれたこのイベントも、今や老松通り恒例のイベントとして定着している。

当日は、各店が得意とするジャンルのものを出品し、一般の方々に入札してもらう「入札会」や、お家に眠る骨董品を各店にて無料鑑定する「お宝無料鑑定」、手品などが実施された。

秋の一日、西天満4丁目界限一帯では、美術品をながめながら気楽に散歩を楽しむ人たちで溢れた。

(北・都島・福島支部)

---

### 空堀商店街で、織田作之助・原作の映画「秋 深き（仮題）」のロケ

11月1日、空堀商店街の八百屋や周辺の商店街内の坂道などを使用して、大阪出身の作家、織田作之助の短編を原作とした映画「秋 深き（仮題）」の撮影が行われた。

織田作之助（1913～1947年）といえば、法善寺横町の『夫婦善哉』が有名で、今年は没後60周年にあたり、記念イベントも開かれている。

今回の映画は、短編の「競馬（1946年）」と「秋深き（1942年）」を融合させた作品で、監督は池田敏春、主なキャストは八嶋智人、佐藤江梨子、佐藤浩市。

撮影は10～11月に行われ、時代設定を平成におきかえているものの、今も残る古きよき大阪の町並みを背景にしたいとの監督の意向により、空堀商店街での対面販売による買い物風景の撮影となったもの。撮影にあたっては、制作会社からの依頼により、大阪商工会議所の大阪ロケーション・サービス協議会と中央支部が、助監督や映画スタッフとともに空堀の3商店街へ挨拶に回らせていただいた。

当日は、商店街のBGMをしばらく止め、通行も一部制限しての撮影で、予定より長時間にわたったものの、滞りなく撮影は終了。よりかつての八百屋らしく、ということで近くのお茶屋さんの年代物の前掛けを借りるなど、店主さん方の協力により、様々な工夫が凝らされている。

本編の公開予定は現在のところ未定であるが、是非皆様にも映画館へ足を運び、オダサク文学の味わいを堪能していただきたい。

(中央支部)

---

### 八幡屋付添い・宅配ほのぼのサービス

八幡屋商店街、港中央市場では高齢者や障害のある方が地域でいきいきと自立した生活を営



むことを応援する取り組みを開始した。

同商店街では、高齢者や障害のある方などを対象に会員カードを発行。地域ボランティアと連携し、「商店街から自宅までの付き添いサービス」、「希望商品の宅配サービス」を展開するほか「商店街内の休憩所での落語などのミニイベント」を開催する。

ふれあいや支え合いを促進し、顧客の維持、拡大を図り商店街の活性化につなげることが目的のこの取り組みは、大阪市経済局が平成19年に商業振興策として新たに設けた「区役所提案型商業活性化モデル事業」として採択されている。

この事業は、大阪市内の各区役所から「地域実情を十分反映し、あるいは地域資源をうまく活用した商業振興プラン」を募集。企画内容を審査し、三区のプランがモデル事業として採択されるもので、旭区、平野区とともに港区のこの取り組みが採択された。

9月3日から開始して2ヶ月が経過。発行したカードは、75歳以上のひとり暮らしの方を対象とした「ほのぼのカードゴールド」は65枚、また、60歳以上の方を対象とした「ほのぼのカード」は20枚に上っている。「いろいろなイベント、事業を通じてお年寄りから子供まで安心して立ち寄り、賑わいのある商店街にしていきたい」と代表の八幡屋商店街の角正基理事長は述べている。

(此花・西・港支部)

---

## 12回目を迎えた西成区商店街フェスティバル

西成区商店街連盟では11月11日(日)午後1時より、西成区民ホールにおいて、西成区商店街フェスティバルが開催された。

午後1時からのオープニングステージでは、住之江区ウィンドオーケストラコンサート、大阪商工会議所 大正・浪速・西成支部女性会ひまわり会コーラス部、よさこいステージと出し物が続いた後、オープニングセレモニーを行った。

井上会長挨拶、三宅区長挨拶、川岡府議会議員挨拶と、祝電等披露、来賓紹介のあと、抽選会が開かれた。この抽選券は、当日11時から15時の間に、西成区史跡と商店街を巡るスタンプラリーに参加すると、最終の区民ホールのゴールでもらえるというもので、会場には約200席が設置されたが、抽選会の時にはほぼ満席に近い状態であった。

ホール入り口には、大阪商工会議所 大正・浪速・西成支部のPRコーナーと、西成区地域福祉アクションプラン推進委員会の子供向けの風船コーナー、防犯協会による自転車のひったくり防止ネット配布コーナーが設置された。参加人数を述べ500人であった。

(大正・浪速・西成支部)

## 住之江・住吉区の商店街は活性化に動き出した

住之江・住吉支部は本年度の重点目標に商店街活性化を掲げている。当支部管内には、「がんばる商店街 77 選」に選ばれた粉浜商店街や、毎月イベントを打ち出す加賀屋商店街、そして 1 日の通行客 1 万 5 千人を誇る地下鉄あびこ商店街などがある。

本年度の当支部の「活性化の目玉その 1」は、「住之江区商店街買い物ブック」（11 月 20 日刊行）である。同ブックでは、住之江区内商店街の地図と大商会員商店の広告を掲載し、それに加えて生活便利帳や電話帳も付けて買物と生活の両方に役立つものに仕上げた。商店街の周辺地区に戸別配布するとともに、商店街、広告掲載商店、区役所に配布し、できる限り多くの住民に配布できるよう工夫したこともあり、「販促に使いたいので大量の部数が欲しい」という積極的な商店街、商店もあった。

次いで「活性化の目玉その 2」は、管内商店街活性化取り組みへの支援である。まず、住之江区の初辰市で有名な粉浜商店街で新たに「まいど市」を企画していた際に、当支部は「商店街全員での取り組みとすること」や「自由参加とすること」を助言し、まいど市は成功裡に開催された。また、加賀屋商店街では、毎月のイベントに対してアドバイスするとともに、イベント助成金の手続きを助言した。安立商店街では、一店逸品運動を推進し、3 回のチラシの配布の際、各店がその特長を理解してもらえるようアドバイスを実施したほか、年 4 回の落語会を開催できるよう支援した。住吉区の長居市場ではイベント助成の手続きを支援したほか、当支部実施の活性化セミナーに参加した商店が売出しを工夫するようになり、売り上げが下げ止まったのみならず、創業祭ではこれまでの最高の売上高を達成することができたという声も寄せられている。他にも、長居商店街では、夏祭りイベント助成の手続きを支援したことで、助成が利用でき費用面での心配が払拭されて今後も継続して同イベントを開催することが可能となったそうである。

当支部では、今後も商店街に対して積極的に働きかけて、活性化への道筋をつけるとともに、各商店への販促に積極的に関わるなど幅広く支援していきたい。

(住之江・住吉支部)

## 建築基準法改正による影響

### 建築物新規着工延期影響の裾野の広がり

当支部管内では多数の建築関係中小事業者が営業されているが、幸いにも関与先はリフォーム業者が多いことから、今回の建築基準法改正とそれに伴う同法運用マニュアル変更による新規着工遅れでの直接で重大なる経営への影響の話は聞いていない。しかし今回、関与先へ知人・友人の設計事務所、新規建築を得意とする建築業者はどうかとの聞き取りを行ったところ、残念ながら最近倒産したところもあるとの話しを伺った。継続的な借入で経常運転資金を賄っていたところほど数ヶ月に及ぶ受注ストップの影響は大きく、運転資金が枯渇し、かつ営業成績の不振により新たな融資を受けることもできなくなったことが最大の理由ではないかと同業者も考えているようである。

ところが今回のこの影響、建設関係だけには止まっていなかった。

経営指導先でありマル経利用先でもあるチェーンやプーリー、歯車を専門に卸売している旭区のM社（匿名希望）は、今年の春以降、特定分野の受注減に困っている。その分野とはエレベータ関連の部品である。当支部管内は工場跡地への新規マンション建築ラッシュが今も続いており、同社も昨年から売上好調だった。今年度も強気の予想をしていたが、春先から受注減少の兆候が発生し、それ以降、その分野での売上が大きく減少した（現在もこの状況は続いているとのこと）。

確かにマンションを例にとると、直接その構造物に使われている鉄筋やコンクリート以外のモノだけでも、上記のエレベータや、風呂台所等水設備、電気設備等、またモノ以外でもそれらを設置する内装業者や運搬する運送業者等、1つの建物建設に実に多くの産業・業者が係わっている。今回の建築基準法改正でそのすべてに大なり小なりの影響が出ているわけであり、単一法改正で短絡的に建築業界のみが打撃を受けていると捉えるのではなく、裾野の広い分野での法改正には、行政や我々指導員がその下流の影響まで考慮した経営支援を行っていく必要があることを今回の「建築基準法改正」ヒアリングで痛感した。

ちなみに前述のM社であるが、大手家電メーカーの大工場建設による生産ライン用コンベア一部材の受注が入り当面の危機は回避できた。その仕入れ資金は蛇足ながらマル経利用によることも付け加えさせていただく。

（旭・城東・鶴見支部）